

2～3歳の子どもの 集団生活を支えるヒント

「みんなと同じ」より、その子なりに安心して参加できること

今日のお話

子どもの行動を「困った行動」だけで見ず、
“何に困っているのかな？” と考えるための30分です

1

2～3歳の「集団生活」って？

まだ、みんなに合わせる力を育てている途中です

この時期に起こり やすいこと

- ・遊びをやめにくい
- ・待つことが難しい
- ・ことばだけの指示が入りにくい
- ・友達との距離が近すぎる／遠い
- ・疲れると崩れやすい

大切な見方

「できない」＝やる気が
ないとは限りません。

わからない／刺激が多い
／切り替えが難しい／助
け方がまだわからない、
ということがあります。

目標は…

最初から“みんなと同じ”ではなく、
✓ 安心してその場にいら
れる
✓ 少し参加できる
✓ 困った時に大人を頼れ
る
ことも大切な力です。

2026 もちもちミニ講話

2

行動の見方を少し変えてみる

「困った行動」から「何に困っている？」へ

見える行動

走り回る
泣く
おもちゃを取る

考えてみる

何が難しい？
何を伝えたい？
どんな助けが必要？

大人の工夫

伝え方を変える
環境を整える
できた瞬間を見つけ
る

行動は「困らせるため」ではなく、その子なりのサインかもしれません。

2026 もちもちミニ講話

3

集団生活を楽にする 5つの工夫

家庭でも園でも使いやすい、小さな支援です

- 1 見通しをつくる：「あと1回でおしまい」「次はおやつ」
- 2 ことばを短くする：一度に一つ。短く、具体的に。
- 3 できている瞬間を見つける：「座れたね」「待てたね」「渡せたね」
- 4 切り替えの準備をする：突然終わらせず、予告や“最後の1回”を。
- 5 参加のハードルを小さくする：見るだけ→大人と一緒に→少し参加、でもOK。

2026 もちもちミニ講話

4

伝え方を変えるだけでも違います

長い説明より「短く・具体的に・一つずつ」

伝わりにくい例

「ちゃんとお片づけして、
手を洗って、椅子に座ってね」

伝わりやすい例

- ①「おもちゃ、ないないしよう」
↓ できたら
- ②「手を洗おう」
↓ できたら
- ③「椅子に座ろう」

ポイント：できた直後に「できたね」「片づけられたね」と具体的に伝える

5

5

家庭で今日からできること

全部やらなくて大丈夫。まず一つで十分です

見つける

「できていないこと」だけでなく、
少し待てた
大人を見た
一緒に片づけた
泣いた後に戻れた
そんな“小さなできた”を見つけてます。

伝える

「えらいね」だけでなく、
「待てたね」
「持ってこられたね」
「一緒にできたね」
と、何ができたかを短く伝えます。

助ける

うまくいかない時は、
“もっと頑張らせる”前に
・わかりやすくする
・刺激を減らす
・少し手伝う
を試してみます。

8

6

2026 もちもちにミニ講話

まとめ

子どもの育ちを支える「見方」と「工夫」

1 「できない」より：「何に困っている？」と考えてみる

2 子どもを変える前に：環境や伝え方を少し変えてみる

3 小さな「できた」を：大人が見つけて、具体的に伝える

「みんなと同じ」より、その子なりに安心して参加できることを大切に。

9

7

2026 もちもちにミニ講話



ご参加 ありがとうございます

8

2026 もちもちにミニ講話